

事務事業名		まちなかにぎわい空間整備事業					評価区分(事前評価・事後評価)			事後評価(A・B表)	
政策体系	基本目標	1 地域の特色を活かした快適なまちづくり					担当組織	担当部	都市建設部	担当課	都市計画課
	政策	2 住みやすい快適なまちづくり					担当係	まちなか活性化係		担当課長名	越石 彰
	施策	2 まちなかの活性化と公共交通網の整備					新規事業・継続事業		継続事業		
	基本事業	1 計画的な中心市街地活性化の推進					実施計画事業・一般事業		実施計画事業		
予算科目	短縮コード	会計	款	項	目	予算細事業名					
	11531	一般	8	4	2	まちなかにぎわい空間整備事業					
	事業区分	市単独事業・国県補助事業		国県補助事業			任意的事業・義務的事業		任意的事業		
事業計画	期間限定複数年度	事業期間	25年度～28年度		根拠法令 条例等	実施方法		直営			
						事業分類		施設等整備事業			
						リーディングプロジェクト		該当なし			
						市長マニフェスト		3-1			

1. 事務事業の現状把握【DO】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

① 手段(事務事業の主な活動内容を記入します。)										
事業概要(具体的な事務事業の活動内容・進め方)			平成26年度実績(平成26年度に行った主な活動内容)							
まちなか活性化のシンボル軸となる市道1級1号線の道路拡幅に併せ、イベント開催や近隣住民の交流を図るためのポケットパーク等を整備することにより、中心市街地のにぎわいを創出するとともに、災害時には本庁舎と連携して防災機能を持たせた空間として活用する。			対象規模 730㎡ 対象地権者8件、うち平成26年度は、用地交渉がなかなか進まず、用地買収を行うことができなかった。							
まちなかにぎわい空間整備事業は、都市再生整備計画事業(旧まちづくり交付金)の基幹事業となっており、平成25年7月に都市再生整備計画を計画変更し、平成25年12月議会で補正予算を議決し、事業化した。			活動指標		単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(見込)	28年度(見込)	29年度(見込)
			用地買収面積		㎡	112	0	618		
② 対象(この事務事業は誰・何を対象としていますか?)										
①対象区域居住者 ②市民 ③来街者、観光客			対象指標		単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(見込)	28年度(見込)	29年度(見込)
			中心市街地人口(20町会)(住基台帳1月1日現在)		人	7,875	7,732	7,580		
			人口(住基台帳4月1日現在)		人	123,182	122,582	121,522		
③ 意図(この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)										
①今までより住みやすくなったと実感してもらおう。 ②市民がまちなかに来やすくなり、まちなかに活気が出てくる。 ③佐野市に来てみたくなる。			成果指標		単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(目標)	28年度(目標)	29年度(目標)
			中心市街地居住者の減少率		%	1.5	1.8	1.4		
④ 結果(どのような結果に結びつきますか?)										
地域の特性を活かした事業展開や基盤整備を進めることにより、魅力的なにぎわいのある中心市街地を形成する。			上位成果指標		単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(目標)	28年度(目標)	29年度(目標)
			まちなかが以前に比べて便利になったと思う市民の割合		%	25.9	25.9	29.0	30.0	

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳		単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(目標)	28年度(目標)	29年度(目標)		
	国庫支出金	千円				4,900	7,500			
	県支出金	千円								
	地方債	千円				31,000	11,800			
	その他	千円								
	一般財源	千円		567	5,842	1,717	700			
	事業費計(A)	千円		567	5,842	37,617	20,000	0		
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
			消耗品費	5	手数料	43	消耗品費	30	工事費	20,000
			手数料	247	土地購入費	5,799	手数料	50		
業務委託料			315			設計委託料	3,507			
						土地購入費	34,030			
人件費	人		2	2	2	2				
のべ業務時間	時間		720	720	720	720				
人件費計(B)	千円		2,802	2,838	2,838	2,838	0			
トータルコスト(A)+(B)	千円		3,369	8,680	40,455	22,838	0			

事務事業名	まちなかにぎわい空間整備事業	担当部	都市建設部	担当課	都市計画課	担当係	まちなか活性化係
-------	----------------	-----	-------	-----	-------	-----	----------

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	平成23年9月30日に佐野市まちなか活性化推進協議会から、南北シンボル軸(市道1級1号線)の拡幅整備について、見通しの良い交差点やゆとりのある歩道と残地を利用してにぎわい創出を図ることが提言された。
②事務事業を取り巻く環境(対象者や国・県などの法令等、社会情勢など)は事務事業の開始時期や合併前と比べてどのように変化していますか？	定住人口減少、少子高齢化の進展、空き店舗数の増加など中心市街地の抱える課題は深刻なものがある。
③この事務事業に対して、関係者(市民、議会、事務事業対象者)からどのような意見・要望がありますか？	市民からは、まちなかの衰退に歯止めをかけ、にぎわいを取り戻す仕掛けの一つとして期待されている。

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
現状維持	平成25年度に都市再生整備計画を計画変更し、平成25年12月、補正予算を議決し事業化した。

2. 事務事業の事後評価【Check】

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的(対象・意図)は、政策体系(結果)に結びついていますか？	
	結びついている	理由・改善案 イベント開催や高齢者をはじめとした近隣住民の交流の場を整備することは、まちなかにぎわいとコミュニティの形成を図るための重要な取り組みであり、結果的に魅力的なまちづくりに結びつくものである。
	②公共関与の妥当性 なぜこの事務事業を市が行わなければならないのですか？ 民間やNPO、市民団体などに委ねることはできませんか？	
	市が行わなければならない	理由・改善案 この事業は、都市再生整備計画に掲げた市道整備と一体的な残地の整備であるため、市が行うことは妥当である。
	③対象・意図の妥当性 事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す必要がありますか？	
	妥当である	理由・改善案 この事業を行うことで、対象区域の居住者が今までより住みやすくなったと実感してもらい、来訪者等が今まで以上にまちなかに来てもらうことができれば、まちなかの活性化につながるため、対象と意図は妥当なものである。
有効性 評価	④事務事業の成果向上余地 事務事業の成果は出ていますか？ 事務事業のやり方・進め方を見直すことで成果を向上させることができますか？	
	成果向上余地がない	理由・改善案 この事業を進めることで、まちなかに付加価値を高めることになるので、市内外から来街者を呼び込むことにつながる。
	⑤類似事務事業との統合・連携の可能性 類似の目的や活動形態を持つ他の事務事業がありますか？ ある場合は、その事務事業との統合・連携ができますか？	
	類似事務事業があり統合・連携できる・している	理由・改善案 類似事務事業名 中心市街地街区整備調査事業 中心市街地の道路網を整備することで生活環境の向上を図り居住人口を増やすことにつながる。 * 類似事務事業があれば、名称を記入
効率性 評価	⑥事業費・人件費の削減余地 事務事業の成果を低下させずに事業費・人件費を削減することができますか？	
	削減の余地はない	理由・改善案 市道1級1号線との一体的な整備をすることで事業コストを抑えるため、これ以上の削減余地はない。
公平性 評価	⑦受益者負担の適正化余地 この事務事業の受益者は誰ですか？ 事務事業の目的や成果から考えて受益者負担を見直す必要がありますか？	
	受益者負担を求める必要がない	理由・改善案 この事業の直接の受益者は中心市街地の居住者であるが、中心市街地の活性化は人口減少社会における持続可能なまちづくりの観点から、市民全体の利益としてとらえる必要があり、受益者負担は適正である。
総合 評価	⑧本事業の休止・終了条件(本事業はどんな状態になれば休止・廃止、事業終了となるか？)	
	中心市街地活性化基本計画及び都市再生整備計画第二期に基づく環境整備のため、この整備が終了すれば事業は終了する。	

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 今後の事務事業の方向性	(2) 改革・改善による期待効果	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題(壁)とその解決策																					
現状維持(従来通り実施)	廃止・休止の場合は、記入不要 ×の領域は改革改善ではない。																						
* 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。 (複数ある場合は、①②・・・と記入します。現状維持の場合は記入しません。)	<table border="1"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○	×	低下		×	×	
				コスト																			
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持		○	×																			
	低下		×	×																			